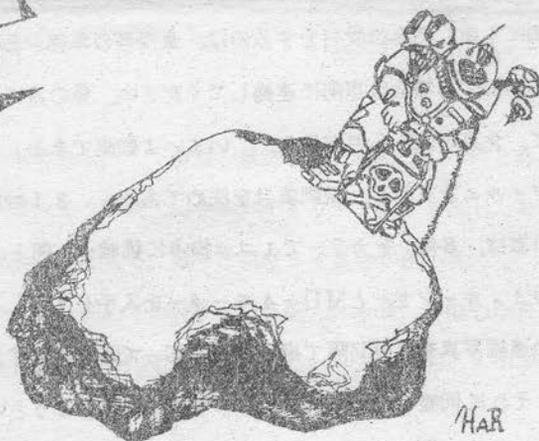
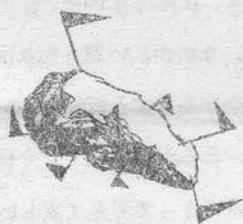
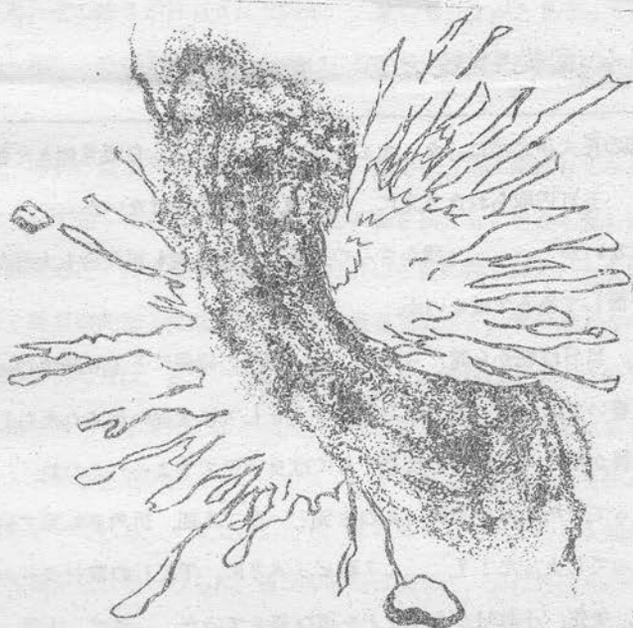


星舟

NO. 104

Feb.-1983



HAR

'82 12月 月食



突撃レポーター

ふくめん小僧

月食 水爆実験説之図 「宮本幸男の観測」

前日迄の正式申込者は、たったの17人！ それも、日頃見飽きた顔ばかり、どうもイヤな予感がする。五百円取られたうえに、何も貰えないのではないか……。最悪の場合は、大雨でも降るのではないか……。誰かさんの企画した観月会も観測会も大雨だった、そしてそのつの名前もデカイ面してあるではないか。

30日、当日は朝から晴だった。良い場所の確保にと16時頃行ってみると、T氏が一所懸命年賀状を書いていた。どうやら粗大ゴミとして家を追い出されたらしい。しかし、まあ昼間の天文台は静かで、一人黙々と仕事するには良い所ですよ……念の為。

次にやって来たのは、東海二高の生徒という二人組、折角自転車であつたのに暗くなるのを待ち切れずに帰ってしまった！？。17時ピッタリに、TKUの取材チームが登場、この時点では準備係の永井、矢住、小林Mが食糧などを運び終えていた。さて、と思っていると、今度は申し込みをしていない不正入学じゃない、飛び入り参加者が続々……。なつかしい顔もあれば、新しい顔もある、22人分しか用意していないと準備係は困惑顔、何とかなるさでとにかく入って貰うことにする。（面倒にも申し込みの受付をするのは、食糧等の準備があるからなので、今後ともこういったイベントに参加する場合は事前に連絡してください。係の身になって考えて欲しいと思います。）

日が暮れて、北東の山から月が昇る。いよいよ観測である。事前打ち合せに参加した者にはKCAOでフィルムを支給し、観測項目を決めてある。31cm反赤は直焦で連続写真を5分間隔で撮影、橋口君は、8mmをカラーで1コマ撮りに挑戦……何とシャッターは4,000回にもなるといふ。スカイ・キャンサーとMD-4モーターを入手して嬉しくて仕方ない矢住は、ハーフ判で72コマの連続写真を3分間隔で撮ると張り切っている。TSP2フローライトの直焦を狙うのは小林M、それに同架して星野（皆既中の）をモノにしようという怠け者は成松氏。その他

色々……。 宮本氏はジャワ日食用に仕入れたF065のテストを兼ねて16cm架台を準備した。

18時48分、食が始まる。永井先生のタイム読みが聞こえる。5・4・3・2・1・0、
バシャ！シャッター音がする。月は計算どおりに欠けて行く。話を聞いてきたのか、一般の方が30名程来た。休台中と追い帰すのも可愛そうと、元島・渡辺両先生が俄かガイド役になって小屈折を並べて月食を見て貰う。

今回の月食、少し前の朝日新聞に根本順吉氏が、火山活動の影響で全く見えないのでは……という話を書いていたように、その暗さが注目されていた。果してどうかと見守っていると影の暗さが異様に濃いことを知った。赤味を感じないのだ。どうも目が暗さに馴れていないからではないらしい。

19時58分、皆既、当初の露出表ではどうも心配で、露出を3倍に延ばしてみる。食の最大の頃は、月の位置が前もって知っていないと、肉眼でその姿を捕えることさえ難しいほどに暗い。

皆既になって、冬の銀河の近くに位置する月の周囲は沢山の星に囲まれているのが、望遠鏡で見ると解かる。KOS(彗星観測部)では、皆既中の彗星を見ようと、堀田が15cm短焦点で掃天を始める。15cm低倍で見る月は、赤というより銀色に見え、それはナカナカの見物であった。

皆既になると、急に風の冷たさが身にしみて来た。そう言えば、日食時には気温が下がるって聞いたことがあったなと古い話を想い出す。気のせいかなと思っていると、矢住が寒いから防寒具をくれと、屋上からわめいている。もしかしたら、本当に冷えていたのかも知れない。

15cmで1982fも捕えられないうちに、皆既の時間は過ぎて、月は再び光の中に出て来た。遂に一度も曇ることないまま、絶好の条件のうちに月食も、月食観測会も無事終了した。

8mmの橋口君、ウデが痛いと言っている。72コマにやささか食傷気味の矢住が、途中で作ったばかりの3脚台が割れたとブツブツ言っていると、下から宮本氏が記念写真ですよーと声をかける。それ！っと皆笑顔でVサイン、ハイ・チーズ！（結局この写真はレンズの曇りで失敗！宮本氏ももう……かな。）

観測終了後は本館に戻って忘年会だ。16畳の室内も、これだけの人間と器具が入るともうパニック状態だ。食いばぐれないように我先にとナベやきウドンに手を出し、お神酒を上げて……。落ちついた所で、自己紹介から始まって、延々夜明けまで宴会が続いた。

久しぶりに顔を出した古い会員、初めての経験という新しい会員、多勢の会員が集まり盛況のサマを見て、KCAOを作った目標の一つ、こうした観測のベースになることが達成されたことに何とも言えぬ嬉しさを感じた。

参加された皆さんお疲れ様。また今度天文台でお会いしましょう。

皆既中の月（撮影／山本重信氏）



データ／1982年12月30日 20h50m アサヒペンタックスSPⅡ($f135mm$,
F3.5)絞り開放 露出3分 フジクロームRD100

忘年会？ 望年会？

MARO

57年12月30日、異常に暗い月食が終ったあと、総人数28名で忘年会を行ったような気がする、と言うのは酒となべ焼うどんのせいで1時頃にはすでに夢の中、ハッキリ言って私めは、酒が入るとだらしがないのであります。つまり酒飲んだら1分前の記憶もあやふやになるという非常に良い（悪い）？性格の持主であるので．．などと下らんことを書いてたでも少なくしたスペースをつぶすしかしょうがない．．

しかし、今回の忘年会は珍らしく参加者が多く天文台の休息室も足のふみ場もないほどで、22人分用意してあったなべ焼きもたりず幹事をあわてさせたのだが、そこはどうにかなるもので、飲んでしまえばわからない．． そのうちに別口の焼肉パーティが外の二期工事分の観測室の中で行なわれたり、室内で歌ががなれたりしていたようであったが、まるで記憶がない、そのうちとつぜん朝となり室に残っているのは10人あまり、みんな飲酒運転で帰ったのかな？あー頭いたー

自己紹介

熊本ろう学校 プラネタリウム見学記

渡辺 和宣

私は聴覚障害の子供たちのいる、熊本ろう学校に勤務している者です。この学校には3才児（幼稚園部）から20才（高等部卒業後の専攻課生）までの子供たちが来ていますが、私は中学部の理科を教えています。ここの生徒は口話語といって、小さいころから話す時の唇の動きを見て、言葉を理解するように教育されており、はっきりと口を大きくあけて、一語一語くぎってしゃべると、手話をつかわなくても、授業を進めることができるようになっていきます。

12月8日に熊本市立博物館のプラネタリウムを見学し、中学部の生徒全員（40名）をつれてきました。耳が聞こえる普通の人たちだったら、室内が暗くなった後の解説者の説明を聞くことができます。しかし、ろう学校の生徒は、この説明を聞くことができません。下調べをして、見学に行く前に、どういのが投影されるか説明しておきました。しかし、どの程度、見学の時に理解できたのか、アンケートをしました。以下、その中から主なものをあげてみます。

わかったもの（40名中）

| | | | |
|----------|------------|-----------|-------------------|
| オリオン 32名 | ベテルギウス 16名 | カペラ 11名 | 今まで月食を見たことがある：13名 |
| おいぬ 28名 | リゲル 20名 | アルデバラン 8名 | |
| こいぬ 23名 | シリウス 8名 | ブレアデス 10名 | プラネタリウムの見学は |
| ふたご 32名 | プロキオン 11名 | ヒアデス 3名 | よくわかった：6名 普通：18名 |
| ぎょしゃ 16名 | ポルクス 12名 | 三つ星 16名 | たのしかった：11名 普通：11名 |
| おうし 28名 | カストル 10名 | M42 6名 | |

<感想>◎とてもよかったけど、矢じるしの所の星は何というのかわからなかった。オリオン座とおうし座の所ははっきりわかった。◎お話しが聞こえなかったから（暗くて）あまりわからなかった。◎わかった所を見た時たのしかった。けど、わからなかった所を見た時たのしくなかった。

以上、熊本ろう学校中学部の生徒のプラネタリウム見学記でした。

さいごに、私も自宅の屋上に観測所を作りました。望遠鏡は、ミザールの「CX-150」です。この望遠鏡では、直焦点撮影で、35mm ネガ上に、月が12mmの大きさに写りました。天文台の31cm 反射では19mmです。望遠鏡は大きいほどいいですね。自宅付近は、人家の灯も少なく、6等星まで見えるようです。御幸笛田町1-2の我が家の観測所にも、ぜひおいで下さい。

行事予定

- 2月 1日 星食観測(詳しくは告知板で...)
- 2月 7日 企画委員会 PM7:30~
- 2月12日 運営委員会(毎月第2土曜です)
- 2月20日 写真コンテスト(詳しくは告知板で...)
- 2月21日 星食観測(詳しくは告知板で...)
- 2月23日 星食観測(詳しくは告知板で...)

告知板

★Photo コンテストのお知らせ★

- 期日 2月20日 PM1:00より 博物館例会において行います。
- 写真 大きさは問いませんが必ずキャビネ又は2E, 2Lサイズの写真を添えて下さい。
- DATA 天文ガイド巻末の「読者の天体写真応募用紙」に準じるもの。

応募は当日会場まで持参して下さい。ただし、例会に持参出来ない方は2月15日までに、写真及びDATA・コメント等を添付して博物館内熊本県民天文台事務局まで郵送又は持参して下さい。

㊦ 〇入賞者には賞品が出ます。

- 〇写真の良し悪しだけでなく説明のユニークだったものや苦労した写真に与えられます。
- 〇応募の写真及びDATA・コメントは天文台の資料として永久保存されます。
- 〇同時に自作品コンテストも行います。こちらの方は、写真又は現物で応募して下さい。設計図・製作記等を添えると入賞しやすくなります。
- 〇郵送応募は2月18日必着です。〆切を守って下さい。
- 〇くわしいことは、博物館(24-3500)永井氏か、矢住(53-2071)までお問い合わせ下さい。

MAROでした。

★木星食(4月30日午前4時30分ごろ)について★

今年の天文現象の中で、目をひくものの一つに、木星の星食があげられます。この現象で熊本は観測に適しているので、天文台で本格的な観測を行うことになりました。このため4月30日に備えて下記の星食を用いて、天文台にて練習を行いますので多数の参加をお願いします。

- 2月 1日 22時53分(火) 5.1等星
- 2月21日 0時23分(月) 6.0等星
- 2月23日 23時14分(水) 5.8等星

3月 5日 5時34分(土) 5.9等星

3月24日 1時40分(木) 6.2等星

3月26日 19時53分(土) 5.7等星

4月18日 22時31分(月) 6.3等星

4月19日 19時17分(火) 5.8等星

詳細はその時お伝えします。



★天文台日誌より★

今回は昨年(2011年)の11月1日から11月30日までの天文台日誌からピックアップしてみました。

★11/ 2 女性3人組が来たら、とたんにサービスが良くなった。運営委員の正体みたり..

(小林J)

★11/ 4 お客様の2名が帰られた後、月の出、その後晴れました。天候は無情なもの。それにしても1人ではきつ〜い。

(小林M)

★11/ 6 玄関灯が壊されている、対策を考える必要有り。消火器いれました。

(中島・小林J)

- ☆11/7 KCAOにコンピューターが導入されるのはいつの事か？ 宮本さんは12月30日の月食時の月の地平座標等を計算中。これなんかもコンピューターがあれば便利なのになー。
- ☆ 同日 KCAOの法人化が難行しそう。とかくこの世は住みにくいものだ
(スペース・パラノイヤ)
- ☆11/12 新彗星か！？ ○田のアホがさわぎを起こす、M77を見て・・・
(記入者不明)
- ☆11/13 流星が多かった。火球 20h41m, 等級-3, 発光点 アンドロメダ α とベガス β の間, 消滅点 くじら座 α の付近, 継続時間3秒。
(山本)
- ☆11/14 1家族(親3名, 子3名)たいそう感激して帰られる。And β 等きれいだ, きれいだと言って喜んでもらった。
(MAT)
- ☆11/17 チェリモフ・ガラスメンコ彗星を久しぶりに見る。明るくなってるぞー。m 9.5ぐらい。
(成松)
- ☆ 同日 観測小屋の設計の打ち合わせ。
(成松)
- ☆11/24 チェリモフ・ガラスメンコさん, 9.0等でTail 5', 幅が広い。
(中川)
- ☆11/30 曇天のため本日の一般公開は中止。3人の中に曇男がいる。(おそらくS氏)
(佐藤)

☆☆ 編集後記 ☆☆

☆HAR☆

星屑の104号をお届けします。星屑の編集をやるのは始めてなのですが、最後の最後までドタバタとして周りの方々に御迷惑をかけてしまいました。But, ようやくこの後記を書けるところまでこぎつけて、今、ホッとしているところです。(とはいっても、後に印刷・発送の作業が残っているわけですが)けれども大学生はこれから後期試験、ハードな日がまだ続きそうです。

えー, それから表紙のイラストは、1980年4月号のSFマガジンの宮武一貴氏のカットから頂戴(?)したものですので... 著作権なるものが、どーなっているのか知りませんが...